

文学紀行－青森県の名湯 記念講演会

吉川英治が長期滞在した温川温泉、丹羽洋岳が開いた青荷温泉、大町桂月が終の棲家とした蔦温泉、井上靖が小説で紹介した下風呂温泉。青森県内には、作家と関係の深い温泉が数多くあります。温泉場には多くの人々が癒しを求めてやってきます。かつては湯治を通じて長期滞在し、旧交を温める場でもありました。その独特の雰囲気、作家にとって、心地よいものに響くのでしょうか。今回の講座では、作家や作品から温泉を読み解くのではなく、青森県民が愛し、青森県民に愛された温泉場について、資料や写真を駆使し、歴史的な観点から考えていきたいと思います。施設の老朽化、人員不足、燃料費の高騰、後継者不足など、温泉場を維持する人々の労苦は絶えず、県内の温泉は危機に直面しています。今回の講座を通じ、温泉場が県民の大切な財産であることを少しでも理解していただければ幸いです。

■演題 「県民が愛した温泉場

～歴史的観点からひもとく～



■講師 なかぞの ひろし 中園 裕 氏

(青森県地域生活文化課 県史担当 総括主幹)

1965年神奈川県生まれ、青森市在住。青山学院大学大学院修了後、立教大学大学院で博士号(文学)を取得。専門分野は日本近現代史、地方史。現在、青森県交通・地域社会部地域生活文化課文化スポーツ・NPOグループ(県史担当)総括主幹。青森県史の編さんに長く従事し、近年は新聞や雑誌に、写真を軸にして青森県の歴史を多数紹介している。主要な著作に『青森県昭和の町と村』(デーリー東北新聞社、2020年)『弘前・黒石・平川の100年』(いき出版、2023年)などがある。

日時 令和6年8月17日(土) 午後2時～午後3時30分

会場 弘前市立観光館 多目的ホール

定員 100名(事前申込制、先着順)

* 事前申込制になります。申込はお電話か文学館窓口まで。

* 申込受付は7月17日(水)午前9時より開始。

入場無料

〈お問い合わせ〉 弘前市立郷土文学館 (☎ 0172-37-5505 午前9時から午後5時まで)